

1. 編集委員会

福島 統 (委員長・東京慈恵会医科大学教育センター)

編集委員会が運営委員会から独立して独自の委員会組織になったのは2000年4月からである。新しい組織としての雑誌刊行は第31巻2号からである。その後の日本医学教育学会編集委員長は、第13期は鈴木淳一氏、第14期は庄司進一氏、第15期は吉岡俊正氏、そして第16期から福島が担当している。第13期では、査読システムの確立を目指し、全ての学会員が査読者になりうる体制を作り、第14期では、論文の質の向上を目指し医学教育研究での原著論文の定義についての議論を行い、当時の吉岡編集委員を中心に投稿規程の検討を行い、第15期編集委員会の発足とともに新投稿規程が施行された(2006年1月)。第16期では本誌掲載論文をインターネット上で検索可能にするためにJ-STAGEへの掲載を進め、一時中断していた文献紹介を再開し、さらに医学教育研究に関する統計手法、質的研究手法の紹介も始めている。

第34巻(2007年)からは大会抄録号を補冊として年7冊の刊行となっている。特集としては、

「モデル・コア・カリキュラムと共用試験」(33巻2号), 「大学外卒前医学教育:地域での医学教育」(34巻3号), 「卒後臨床研修必修化後の専門医制度を考える」(35巻3号), 「臨床研修後の進路:研修必修化2年を経て」(36巻5号), 「各国の医学教育」(36巻6号), 「平成17年度特色ある大学教育支援プログラム, 現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(37巻1号), 「卒前医学教育専従部署の紹介」(37巻), 「卒前医学教育責任委員会の紹介」(37~38巻), 「医学教育担当事務部署の紹介」(38~39巻), 「Population-based Medicineの教育:個人から集団へ」(38巻2号), 「学士入学制度調査を中心とした海外諸国における医学教育事業視察報告(第一報)」(39巻6号), 「次世代の医学教育者の育成に向けて—医学教育マスターコース検討委員会報告」(40巻4号), 「学士入学制度調査を中心とした海外諸国における医学教育事業視察報告(第二報)」(40巻4号)とその時々の特ピックスを先駆けて取り上げてきた。

2. 広報委員会

森田 孝夫 (委員長・奈良県立医科大学医学教育開発センター)

日本医学教育学会ホームページは2001年4月、第13期の編集委員会(鈴木淳一委員長)によって開設された。2004年1月、第14期では編集委員会は編集・出版・HP委員会(庄司進一委員長)と名称変更され、ホームページの管理運営が強化された。2006年1月、第15期理事会に広報委員

会(福島統委員長, 委員7名)が新設され、ホームページの管理運営は広報委員会へと移管された。2009年1月、第16期広報委員会(森田孝夫委員長, 委員7名)へと引き続いている。

広報委員会の主な役割はホームページを介して、本学会の活動を国内外へ公開すること、医学

教育に関する情報・資料を提供することである。ホームページの主な掲載内容を表1に示す。広報委員会は定期的にホームページの充実を図っている。第16期広報委員会の大きな事業として、国際関係委員会との連携による英語版ホームページの開設と情報基盤開発委員会との連携による「医学教育に関するリソース」のホームページ内設置があり、広報委員会が総力を挙げて取り組んでいる。

表 ホームページの主な掲載内容

-
- ・ TOPICS・バナー
 - ・ 学会概要・会則・入会案内
 - ・ 委員会活動
 - ・ 「医学教育」の論文抄録等・投稿規程
 - ・ 図書・文献・資料・私の学んだ本
 - ・ 教育実践のTIPS
 - ・ 機関会員・賛助会員
 - ・ リンク集
 - ・ 問い合わせ・ご意見
-

3. 国際関係委員会

吉岡 俊正（委員長・東京女子医科大学医学教育学）

国際関係委員会は、1) 医学教育に関する国際的情報の収集、2) 国際的医学教育活動、3) 韓国医学教育学会との学会間協定に基づく交流、そして4) 日本医学教育学会大会インターナショナルセッションの運営を行っている。2009年に今期の委員会が発足し、現在8名の委員で構成されている。

1) については国外の医学教育にかかわる学会などの情報を集積し、委員会ホームページ上に随時掲載している。

2) は各委員が個人あるいは所属機関で行っている国際交流の情報交換・協力と学会が行う国際交流に分けられる。医学教育国際的活動の多くはNGOあるいは教育機関主導で行われ、そこに学会が協力する形で実施されてきた。学会主導の活動として、西太平洋地区医学教育連盟（Association for Medical Education in the Western Pacific Region, AMEWPR）に参画している。世界医学教育連盟（World Federation for Medical Education, WFME）の地域部会であるAMEWPRは、

医学教育機関の国際評価基準（Global standard）作成などの教育国際化を進めている。地域で医科大学を持つ各国代表者が政策的意見交換を行うAMEWPRに日本医学教育学会から代表者を派遣することを通じて学会の国際貢献となっている。

国際化の中で3) の人的交流も重要である。過去4回の大会での交流講演を通じて距離的にも文化的にも関連の深い両国の情報交換は双方に益すると考える。

前期の委員会から継承した4) のインターナショナルセッションは、海外からの医学教育研究の発表、国内の研究者の国際的環境での研究発表の場として定着した。医学教育は国内・教育機関別の問題として考えられることが多い。科学知識・技術だけでなく、医療もメディカルツーリズムや医師の国際間移動が話題になるようにボーダレス化している国際的環境で、医学教育について日本のボーダーとボーダーの外を考えることが委員会の命題である。